

令和4年度 特別活動実践・研究計画

部員	○中田貴広, 佐々木恵, 稲垣勇介, 井上駿太, 佐藤秀恒, 藤田 峻
----	-------------------------------------

研究テーマ
**仲間との関わりを主体的に求め, 学校生活の充実と向上を目指す
 子どもを育む学び**
 ～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

1 研究テーマについて

特別活動部では学級活動（1）を中心に、「話し合い活動」において子どもたちが、主体的な意見交換を通して、自律的な合意形成へ向かうことを目指して実践研究に取り組んでいる。

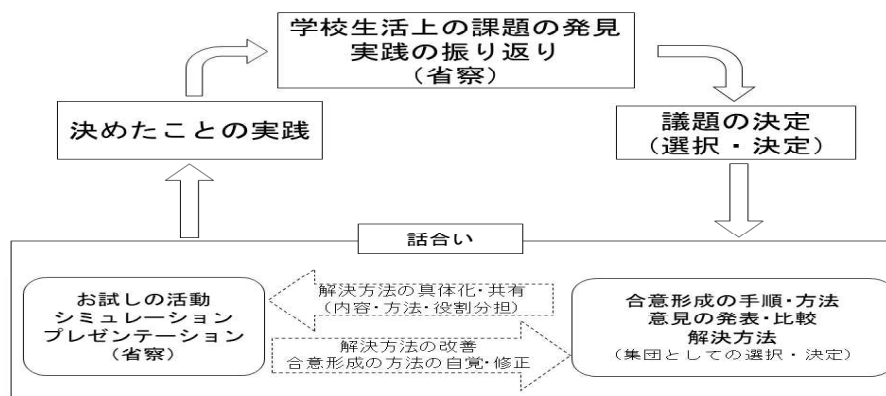
これまでの実践で、お試しの活動やプレゼンテーションといった省察の場を設けることで議題や提案に対する理解が深まることが示された。また「話し合いの技」を自覚的に活用することで、話し合いの見通しが共有されるという成果を得ている。

生活上の課題解決に向かう話し合いでは、集団の総意としての合意形成が期待される。しかし実際、話し合いに対しての満足度という点では、子どもたちの間には個人差が残るのが課題である。相互の意見のよいところを生かしながら、全ての子どもが納得のいく合意形成に到達するには、さらに経験を積み重ね、話し合いのスキルを高める必要があるといえる。

これらを踏まえて、研究テーマは前年度の「仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す」を継承している。これは、集団に対して自ら関与を深め、生活に関わる多様な課題の解決や改善を通して、よりよい人間関係を築き、望ましい学校生活を自ら作り上げる態度をもつことを目的としている。

特別活動で目指す自律した子どもの姿

- ・ 議題に関する既定事項や前提条件などへの理解を深めることで、予め話し合いの流れを構想し、合意形成への見通しをもって自律的に話し合いを進行する姿
- ・ 議題の提案理由を踏まえて自分なりの解決方法を考えたり、話し合いの展開に即して意見を柔軟に修正したりして建設的に話し合う姿
- ・ 自分たちの生活上の諸問題から課題を見つけ、その解決に向けて学級活動を有効に活用しようとする姿



図：特別活動 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

よりよい合意形成につながる省察のものさしを子どもと共有するための手立て
 ○議題の提案理由に基づく話し合いのポイントを作り上げる協働の学びの場の設定
 ○「話し合い活動」の自己評価が次の活動にフィードバックできるような、記録の積み重ねと振り返りの場の設定の工夫